

2：喉を守って、明るい新年

冬の関東地方は、空気がとても乾燥していて、風が吹いていることが多い。加えてビッグサイト周辺は工事が行われていること、多くの人が集まっていることもあって、大変ホコリが多い環境になっている。

そんな場所に長時間いれば、喉を痛める危険性はとても高い。

時期的にも風邪が流行するところでもあり、コミケに向けて様々な無理をしてきた末に、終わった瞬間に気が抜けて体調を崩し、寝（込み）正月になってしまうというパターンも多いだろう。

それを避けるためにも、行列中、会場内、帰宅後、折々にうがいをするようにしよう。また、喉飴などを携行し、時々なめておくのもよい。

冷えと喉を痛めることさえ防止できれば、寝込正月に陥る可能性はかなり低く抑えられる。

動いていれば寒くないということもあって、冬には夏以上にたっぴ体力を消耗しがちである。

Comi Naviでは夏同様に、冬も90分から120分くらいの間隔で15分くらいの『リセットタイム』を設け、トイレに行つうがい、手洗いをし、ちょっと休憩をとっておやつや軽食でエネルギーの補給&体調を確認、カバンの中身、お財布の中身もついでに確認して、帰宅のタイミングを考えることをオススメしている。

なお、最終日が終わってなお体力に余裕があるなら、ぜひ会場の撤収（机、椅子の片付け作業）に参加してほしい。この作業はサークル参加者に限らず、だれでも参加できる。人と机に埋め尽くされていたホール内があつという間に何もかも空に戻っていく様子は、一度見ておく価値がある。

3：劇的温度差に負けるな！

これは特にサークル参加者にとって大きな問題だが、ビックサイトは場所によっては屋外より寒い。どこが寒いかといえば、外に面したホールの出入り口（搬入口）近辺だ。

これはその出入り口のシャッターが会期中のほとんどの時間を通して開いたままとなるため、特に海に面した出入り口付近は寒風がもろに吹きつけ、とても寒いうえに本やチラシは飛ばされるわ、看板類は立てられないわ、ホコリはひどいわ...という悪条件に晒されることになる。

逆に人気ジャンルが集中する場所などでは、人いきれで大変な熱気となり、夏と大差ない薄着で、冷たい飲み物を飲む光景も珍しくない。

サークル参加者は今一度配置図を広げて、自分のスペースがどういった場所に配置されているのかを再確認しよう。

それによって、行くべき準備は大きく変わってくるはずだ。

これらの情報については、Comi NaviのWebサイトで追加情報を掲載予定です。Web環境をお持ちの方はご参照ください。

もちろん一般参加者もそこを行き来する以上、それらの環境とは無縁ではられない。

自分のお目当てのジャンルがどういった場所に配置されているか、島全体を俯瞰して見ておこう。

特に男性向けなどの人数が集中する場所では、分厚い上着は暑いうえに動きづらい。下に着るものとの組み合わせをよく検討し、脱いで歩くことも考えて着ていくものを選ぼう。

なお、その場合には細いヒモやマジックテープのベルトなどを持って行くと、脱いだ上着をコンパクトに丸めてしまうことができる。

そのままカバンにくくってしまえば邪魔にもならないので、事前に研究してみるとよいだろう。

暑い会場内で汗だくになって動き回って体力も消耗し、閉会后日も落ちて寒い会場外に出た瞬間にどっと疲労が襲ってきて力尽きてしまうという事態は避けたいものだ。

アイディアグッズ『筒膝かけ』

膝掛けをかけても脚の裏側が冷える、という経験はないだろうか？

体温を左右する太い血管は膝の裏側を通っているので、膝の表側を暖めても（直接風が当たらないだけでも大分暖かくはあるのだが）冷える感覚自体はそれほど変わらなかったりする。

そこで一工夫。フリースなどの膝掛けの一方の辺に20センチ程の間隔でいくつかホックかマジックテープを縫いつけ、反対側のはじから2、30センチ程に入った場所（この辺は足に合わせて適宜調整されたい）に、同間隔でホックの受けを縫い止める。

コスプレ衣装を作り慣れている人なら30分とかからずに完成させられるかもしれない。

これで、脚をくるむようにしてホックを留めておけば、ちょうど寝袋に脚を入れていているようなもので、まんべんなく防寒できる。30センチ程の耳の部分が襦（まち）になるので、ホックの合わせ目から冷気が忍び込んでくることもないという仕組みだ。

洗濯ばさみが3つ4つあればその場で同様のものを作ることもできる。ひざ掛けを持参する方はぜひおためしあれ。